

わっかで遊びを通して

作成日：2026年1月21日

対象児：4歳児さくら組

作成者：吉岡愛佳

ねらい：輪っかでの遊びを通して友達との関わりをもつ。



～振り返り～

以前の保育を通して様々な動きが「正しい姿勢を保つ体幹や平衡感覚」に繋がることを知り、身体を動かして遊ぶことが大好きなさくら組でも輪っかを使ってみました。園庭で遊んだ際のアトに靴箱までかけっこをする事を楽しみにしている姿が見られていたので、「輪っかをケンケンパしてから走る」を取り入れてみました。すると後日、自由遊びの際に輪っかを自分達で並べてケンケンパをして遊んでいる姿や輪っかを1列に並べて両サイドに分かれてジャンケンをして進む遊びをしている姿がありました。さくら組のみんなでも遊んで、子どもたち同士の繋がりも増えると良いなと思い、輪っかを使うことをクラスの活動にしてみました。

まずはいつも通りにケンケンパをして遊んだ後、1列に並べて2チームに分かれてジャンケンで進む遊びを提案してみると「やってみよう！」と遊びを楽しみにしている姿がありました。初めてする子もいましたが「もう1回したい！」と3回目にはルールを理解し、同じチームの友達を応援したり、声をかけたりして、勝った時には「○○ちゃんジャンケン強いね！」と認め合う姿や、ジャンプしてチームの勝利を喜ぶ姿がありました。

その後に「まだ輪っかを使った遊びあるか」子どもたちに聞くと「うさぎのお引越し！」と教えてくれる子がおり、「やりたい！」と輪っかを使う事を楽しんでいたため、オオカミ役とウサギ役に分かれ、ウサギは輪っかを引っ越し、オオカミはウサギを追いかけて遊びました。輪っかの数により交代で遊んだのですが、外で待っている子は保育者と一緒に「頑張れ！」と応援したり「あっちあいとる！」と教えてあげたりして、子どもたち同士の関わりがよく見られました。その後日には保育者が遊びに入っていないなくても子どもたちだけで「ウサギのお引越し！」と楽しむ声と姿がよく見られています。

ケンケンパは平衡感覚等、ウサギのお引越しは「走る、止まる」の繰り返しの瞬発力やバランス感覚等に繋がるのですが、楽しみながら成長に繋がる様々な遊びや活動をしていけたらと良いなと思います。（健康な心と体、協同性、思考力の芽生え）